

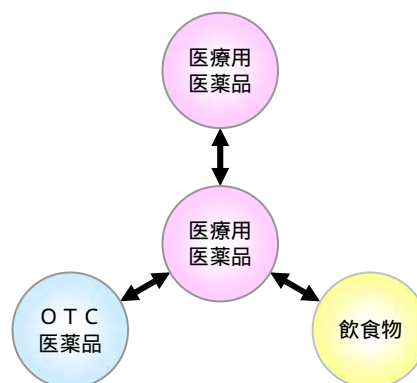
概要

医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての相互作用の情報について、データベースを作成しています。

チェック結果には、添付文書の該当箇所の「併用薬剤名」、「発現事象」、「機序」などを表示することが可能です。

内服薬、外用薬、注射薬を問いません。

右の組み合わせにおける相互作用のチェックが可能です。



特徴

1. 6段階のレベル分け

添付文書の相互作用の情報を以下の6段階のレベルに区別し、レベルの選択に応じたチェック結果を得ることが可能です。

レベル	添付文書の記載表現	
高	禁止	禁忌、禁止、併用しない、併用（投与）を避ける 等
	原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として併用（投与）しない 等
	相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ併用（投与）等
	希望禁止	併用（投与）しないことが望ましい 等
	慎重投与	慎重投与、慎重に併用する 等
低	注意	併用注意、注意、留意 等

添付文書の同一項目内に複数の異なるレベルの記載があった場合には、より高い方のレベルを適用しています。

例)

【併用注意】項目（「注意」レベルに該当）に「相対禁止」レベルの記載がある場合は、「相対禁止」のレベルを適用しています。

【併用注意】

薬剤名等	臨床症状・措置方法
リファンピシン	本剤の血中濃度が低下することがあるので、併用する場合には治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。



2. 相互作用項目以外の記載に対応

添付文書の【相互作用】項目以外の場所に記載がある相互作用についても、漏れなくチェックをすることが可能です。

なお、添付文書の記載項目の選択に応じたチェックを行うことも可能です。

例)

『オーラップ錠1mg』の添付文書の【相互作用】項目に「QT延長を起こすことが知られている薬剤」の記載はありませんが、両薬品の併用は「禁止」となります。

『オーラップ錠1mg』の添付文書

【禁忌】

QT延長を起こすことが知られている薬剤
を投与中の患者

【相互作用】

HIVプロテアーゼ阻害剤
アゾール系抗真菌剤 ... 他



【相互作用】項目には記載がないものの

【禁忌】項目の記載により

オーラップ錠1mgと

QT延長を起こすことが知られている薬剤
の併用は**禁止**

相互作用の併用禁忌の項目以外に記載されている内容でのチェックについて、除外することも可能です。

3. 相手薬の副作用に関する記載に対応

につづく

3. 相手薬の副作用に関する記載に対応

上記第2項の例のように、相手薬が「QT延長を起こすことが知られている薬剤」のような副作用に関する記載の場合でも、該当薬との併用について漏れなくチェックをすることが可能です。

例)

『ヒルナミン錠(5mg)』の添付文書には、【重大な副作用】の項目に「QT間隔の延長」が記載されているため、『オーラップ錠1mg』との併用は「禁止」となります。

『ヒルナミン錠(5mg)』の添付文書

【重大な副作用】

突然死(頻度不明): ~心電図異常(QT間
隔の延長、T波の平低化や逆転~)に続く突
然死が報告されているので~。



ヒルナミン錠(5mg)は

QT延長を起こすことが知られている薬剤
である

相互作用のチェック結果例

『オーラップ錠1mg』

【併用薬剤】QT延長を起こすことが知られている薬剤投与中『ヒルナミン錠(5mg)』

【発現事象】QT延長, 心室性不整脈

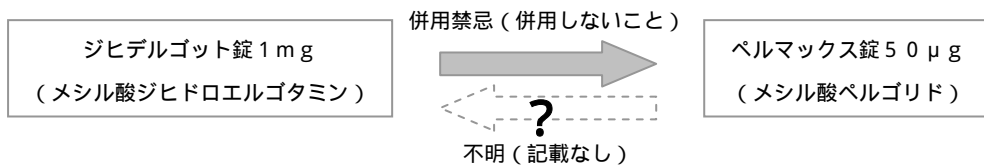
【指 示】**禁止**

4. 一方通行の記載に対応

自薬か相手薬のどちらか一方の薬の添付文書にしか相互作用の記載がない場合でも、漏れなくチェックをすることが可能です。

例)『ジヒデルゴット錠1mg』と『ベルマックス錠50μg』の併用

『ジヒデルゴット錠1mg』添付文書の【相互作用】項目には、「麦角アルカロイド」の記載があります。一方、成分が麦角アルカロイド誘導体である『ベルマックス錠50μg』の添付文書には、「ジヒデルゴット錠1mg」との併用に関する記載はありませんが、両薬品の併用は「禁止」となります。



相互作用のチェック結果例

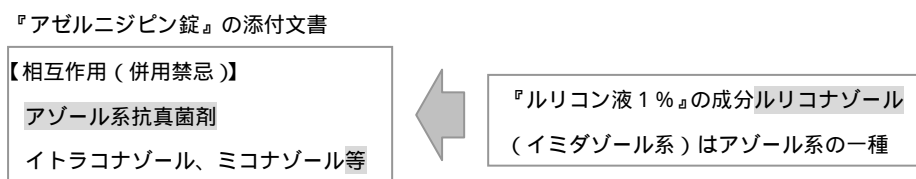
『ジヒデルゴット錠1mg』
【併用薬剤】麦角アルカロイド『ベルマックス錠50μg』
【発現事象】血圧上昇, 血管攣縮が増強
【指 示】**禁止**
【機 序】薬理的相加作用により、相互に作用 (血管収縮作用) を増強

5. 相手薬の薬効群記載に対応

相手薬が薬効群名での記載であったり、具体的成分名が“等”で包括された記載となっている場合でも、対象薬品全てと漏れなくチェックをすることが可能です。

例)『カルブロク錠8mg』と『ルリコン液1%』の併用

『カルブロク錠8mg』の添付文書に「ルリコン液1%」の記載はありませんが、両薬品の併用は「禁止」となります。



相互作用のチェック結果例

『カルブロク錠8mg』
【併用薬剤】アゾール系抗真菌剤『ルリコン液1%』
【発現事象】本剤のAUCが2.8倍に上昇
【指 示】**禁止**
【機 序】これらの薬剤がCYP3A4を阻害し、本剤のクリアランスが低下

内服薬と外用薬の併用ですが、外用薬の全身作用に関しては臨床現場の状況や先生方のお考えが様々であることから、外用薬についても相互作用チェックの対象としてデータベースを作成しています。但し、システムの設計によって外用薬を除外することが可能な区分を設けています。

相手薬が薬効群での記載の場合、当該薬効作用を主とする薬品に加え、当該薬効作用を多少なりとも有する薬品についても、相互作用チェックの対象としてデータベースを作成しています。

6. 飲食物などの相互作用に対応

飲食物やその代表的な成分及び日用品などと、医療用医薬品との相互作用をチェックすることが可能です。

飲食物などの例

【飲料】

コーヒー、紅茶、緑茶、牛乳、コーラ、ビール、ワイン等

【食品】

グレープフルーツ、バナナ、ニンジン、セロリ、コンブ、ワカメ、マグロ、チーズ、チョコレート、納豆等

【日用品など】

タバコ、石鹸、殺虫剤等

相互作用のチェック結果例

『アダラートカプセル5mg』

【飲食物】グレープフルーツジュース

【発現事象】本剤の血中濃度が上昇し作用が
増強、過度の血圧低下

【指 示】注意

【機 序】グレープフルーツジュースに含まれる成分が本剤の肝代謝（チトクロームP-450酵素系）反応を抑制し、クリアランスを低下

7. OTC医薬品との相互作用に対応

OTC医薬品と医療用医薬品との相互作用をチェックすることが可能です。
配合薬であっても個々の成分を対象にチェックをします。

例)『クラビット錠500mg』と『イブA錠』の併用

『クラビット錠500mg』の添付文書

【併用注意】

フェニル酢酸系又はプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛薬（フルルピロフェン等）

『イブA錠』の組成

2錠中

イブプロフェン 150mg

アリルイソプロピルアセチル尿素 60mg

無水カフェイン 80mg

相互作用のチェック結果例

『クラビット錠500mg』

【併用薬剤】プロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛薬『イブA錠（イブプロフェン）』

【発現事象】痙攣

【指 示】注意

【機 序】中枢神経におけるGABA-A受容体への結合阻害が増強